



学校だより 神橋

平成30年8月27日
横浜市立神橋小学校

9月号



Reborn

～「生まれたての 神橋小」～

校長 末松 隆一郎

気がつけば朝晩の風の冷たさに、茅蝋(ひぐらし)もかなかなかなと去り行く頃となりました。道端に咲く秋桜の涼しげな色合いが、厳しかった夏の終わりを、まだ少し遠慮がちに縁どり始めているようです。校舎にも子ども達の元気な声が戻ってきました。どの子もまた一回り成長した姿に、喜びと頼もしさを感じます。

暦の上では立秋を過ぎ「処暑」。季節が動き出し、空気が入れ替わるこの時期を利用して、新しい自分づくり、学校づくりへの再スタートの時期だと思います。子ども達にも一人ひとりにそんな思いをもって前期後半のスタートを切ってほしいと願い、夏休み明け朝会で「生まれたての 神橋小」という話をしました。

Reborn(リボーン)

「Reborn」とは、「生まれ変わること・再生」を意味する言葉です。夏休みに読んだ本の中で印象に残っている言葉がありました。それは「人は生まれ直すことはできない。しかし、生き直すことはできる。」という言葉です。

「生き直す」という言葉は、子ども達には少し難しいかもしれません。しかし、これまでの自分を振り返り、よりよい自分づくりに向けて日々気持ちを新たにしていくことは、子ども達にとって、そして私たちにとっても、とても大切だと思います。そしてそれは、学校にとっても同じだと思います。

今年度神橋小は、新しい学校教育目標のもとでスタートを切りました。言葉として、少しずつ子ども達にも浸透してきていることを感じています。夏休み前には、「学校教育目標デザイン画コンクール」も行われ、デザインも決まりました。(2年生児童の作品が選ばれました。後日お知らせいたします。)前期後半、そして後期が始まるこれからの時期、学校教育目標の一つ一つの言葉にしっかりと魂を入れていくことが大切だと考えています。昨年度の夏休み明けは「RE:スタート」という言葉を使いましたが、今年度はそのような理由から、「Reborn」を次のように考えてみました。

Reborn

季節が「寒さ」へと対極の変化をし始め、空気が入れ替わるこの時期、夏休みが終わり学校生活が再スタートするこの時期を利用して、これまでの自分や、立てためあて・目標などを振り返り、点検・反省・必要に応じて修正し、それをもとに新たな自分として生まれ変わり、学校教育目標のもと、ゴールに向かって走り出すこと。

季節が過ぎやすくなる9月以降は、運動会や「学びのひろば」をはじめ、学校・学年、そして学級やふれあい班などでの行事や活動が予定されています。「生まれたての自分・私たち」、そして、「生まれたての神橋小」として、子ども達と共に、全力で走っていきたいと思います。